

取扱説明書

マルチ巻取機 MHS310JT



正しく安全に効率の良い作業をしていただくために、ぜひ心掛けていただきたいことを述べていますので、ご使用前に必ずお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後は必ず製品に近接して保存してください。

マルチ巻取機 MH310JT お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書はマルチ巻取機の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しく最良の状態でご使用ください。
- この取扱説明書は、いつでも読めるように紛失や損傷の恐れのないすぐ取り出せるところに、必ず保管してください。
- この製品を貸与する場合、作業する人に取扱説明書を熟読願ひ、十分な指示や訓練を行った後にこの取扱説明書と共に貸与してください。また譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、販売店より購入し、いつでも読めるように保管してください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、特約店・販売店にご相談ください。
-  印付の記号は、重大な身体の傷害や死に至る危険が起きる可能性のある操作や状態を示しますので、必ずお守りください。
-



危険

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が極めて大きいことを示します。



警告

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することをしめします。



注意

安全な取扱に対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な損傷に至る可能性があることを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業をするために」を記載しております。使用前に必ずお読みください。

目 次

はじめに	1
1 章 安全に作業するために	3
1. 一般的な注意事項	3
2. 安全銘板の貼り付け位置	4
2 章 サービスと保証について	5
3 章 各部の名称	6
4 章 巻取機の取り付け及び組立て作業	7
5 章 作業前の準備	8
1. エンジンオイルの点検・補給	8
2. 燃料給油	8
3. エンジン始動方法	8
4. エンジン停止方法	9
6 章 作業のしかた	9
1. 巻取りのしかた	9
7 章 点検・整備のしかた	11
1. 作業後の手入れ	11
2. 日常の点検と調整	12
8 章 不調診断のしかた	16
9 章 仕様	17

1章 安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

1. 一般的な注意事項

⚠ 警告 こんなときは、運転しない

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。

思わぬ事故の原因になります。



⚠ 警告 排気ガスには十分に注意

エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合とか、ハウス内で始動または作業する場合は十分に換気をしてください。

「守らないと」

排気ガスによる中毒を起こし、
死亡事故にいたるおそれがあります。



⚠ 警告 作業に適した服装を

はち巻・首巻き・腰タオルは禁止です。作業に適した帽子、滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した服装をしてください。

「守らないと」

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



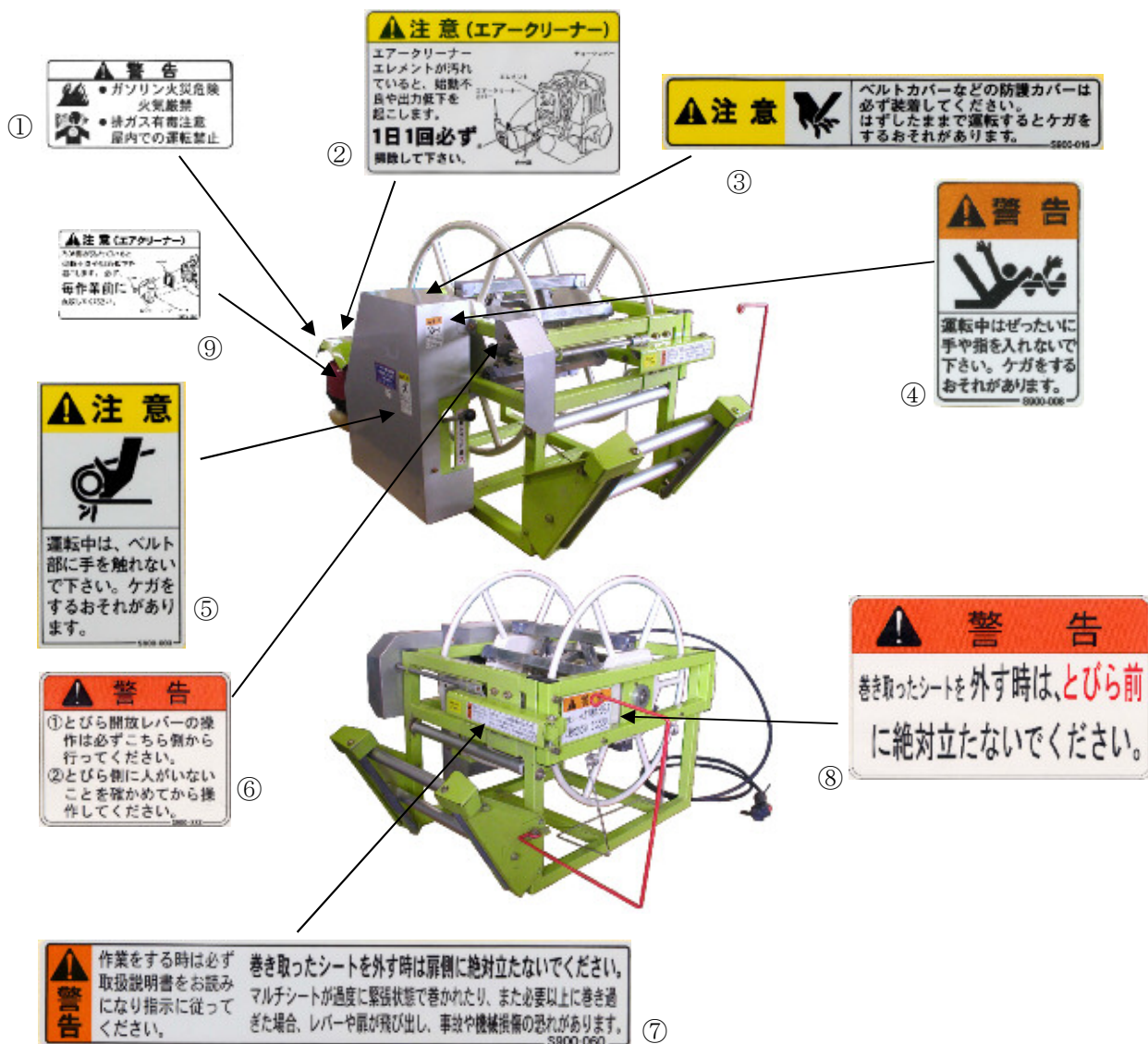
⚠ 警告 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

「守らないと」

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

2. 安全銘板の貼り付け位置



No.	シール番号	品名	枚数
①	S900-042	警告シール（火気厳禁）	1 枚
②	S159	注意シール（エアークリーナー）	1 枚
③	S900-016	注意シール（ベルトカバーなど）	1 枚
④	S900-008	警告シール（運転中は手や指を入れないで下さい）	1 枚
⑤	S900-003	注意シール（運転中はベルト部に）	1 枚
⑥	S900-065	警告シール（とびら開放レバーの操作は）	1 枚
⑦	S900-060	警告シール（巻き取ったシートを外す時は）	1 枚
⑧	S900-064	警告シール（巻き取ったシートを外す時は扉前に絶対立たないで）	1 枚
⑨	S900-092	注意シール（ろ過部が汚れていると）	1 枚

2 章 サービスと保証について

保証書について

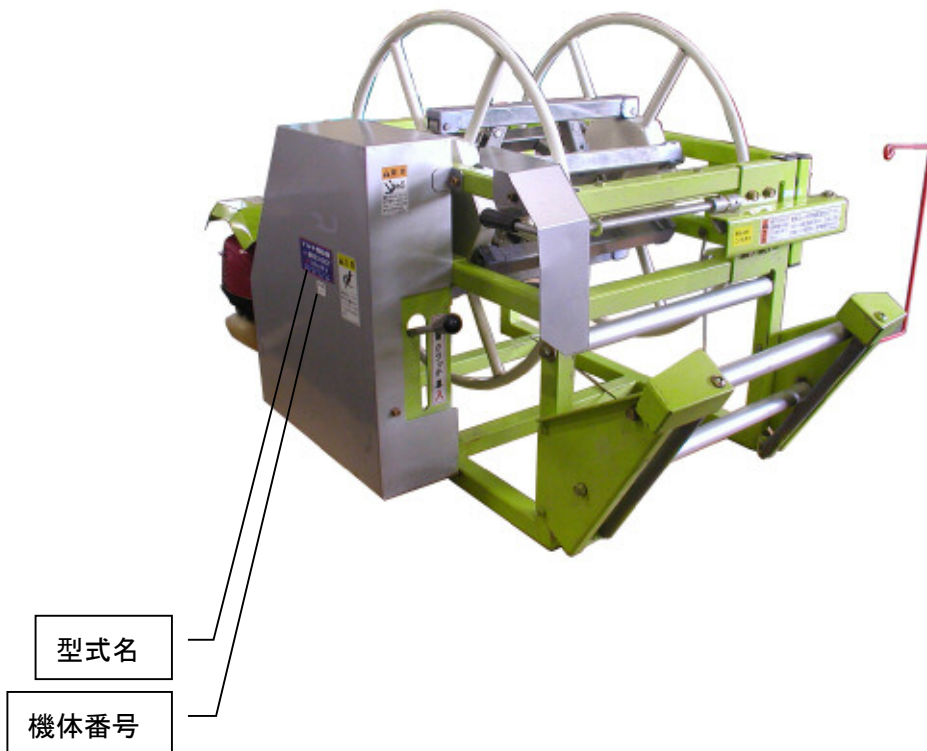
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

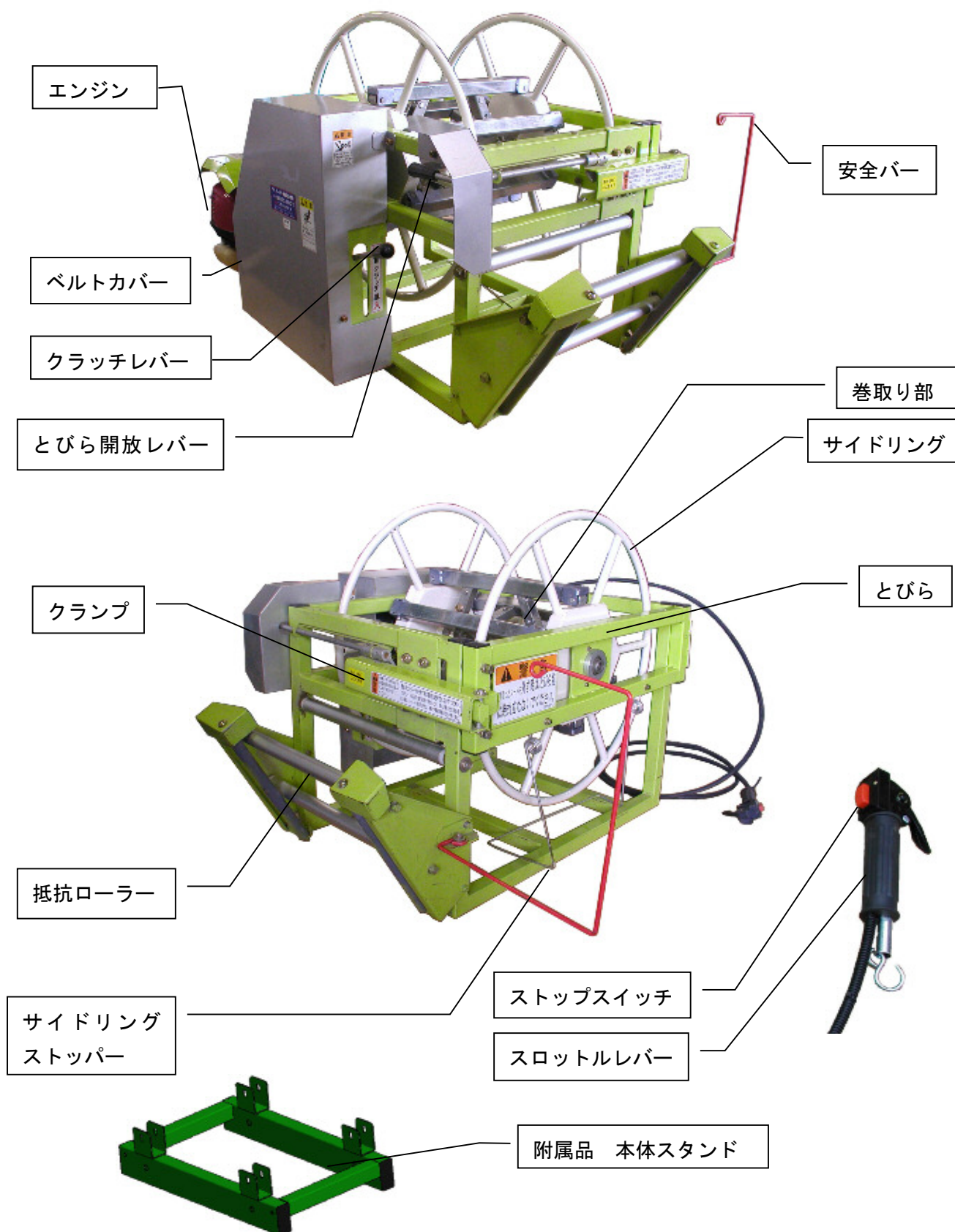
- 機械の調子が悪いときに「故障と対策」に従って点検、処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にしてお買い上げいただいた販売店までご連絡ください。
- ご使用状況は？
- どのくらい使用されましたか？
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後8年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期、および価格についてご相談させていただきます。



3 章 各部の名称



4 章 巻取機の取り付け及び組立て作業



注意

巻取り機を組み立てる際は必ず二人以上で作業を行ってください。

巻取り機は、重いので組立て作業中本機等が落下等しますと、事故や故障の原因になります。

本機搭載可能機種

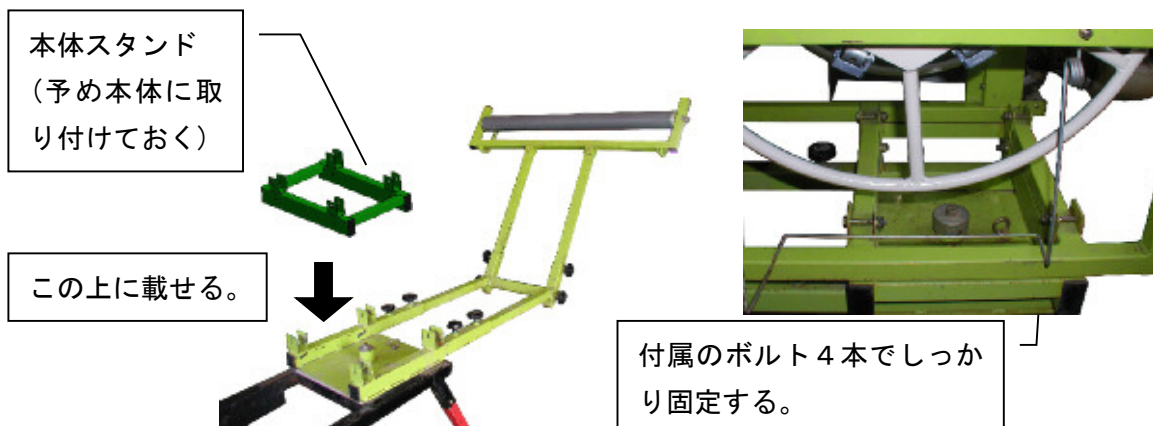
にんにくマルチ回収機	MHS-005NC (NB)
サブソイラーターンテーブル	MHS-003TE (TD)

注意

上記の機種に搭載する専用機です。他の機械には搭載しないでください。

1. 本機取り付け

上記の3機種のいずれかをセットします。(それぞれに付属の取扱説明書、又は取り付け要領書を参照してください。) その上に本機をセットします。付属の本体スタンドを取り付け後、テーブルに付属のボルト4本でしっかり固定します。



2. 本機の組立て

梱包時折りたたんである安全バーを右の写真の様に止るまで回転させボルトを締めて固定させます。



注意

使用する時は必ず右の写真の状態で使用してください。とびらが勢いよく飛び出す場合があります危険です。



折りたたんである状態

この位置まで開きボルトで固定する。



5章 作業前の準備

1. エンジンオイルの点検・補給

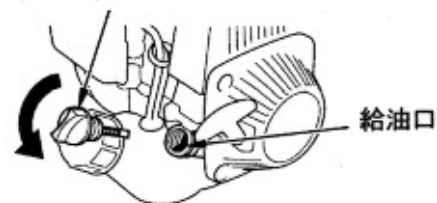
オイル給油キャップを外し、給油口の口元までオイルがあることを確認してください。不足している場合は新しいオイルを口元まで補給してください。

《推奨オイル》 SAE 10W-30 (API 分類SE・SF・SG級相当)

2サイクル専用オイルは使用できません。

オイル量の点検は作業前に必ず実施してください。

オイル給油キャップ



2. 燃料給油



危険

燃料を給油する時は、火気厳禁で行ってください。

このエンジンは、4サイクルガソリンエンジンです。燃料には「無鉛ガソリン」を使用してください。

燃料が古いとエンジントラブルの原因となりますので、新しい燃料を御使用ください。

3. エンジン始動方法



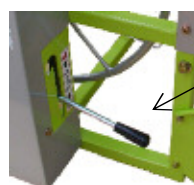
警告

室内でエンジンを始動する場合は十分換気を行ってください。

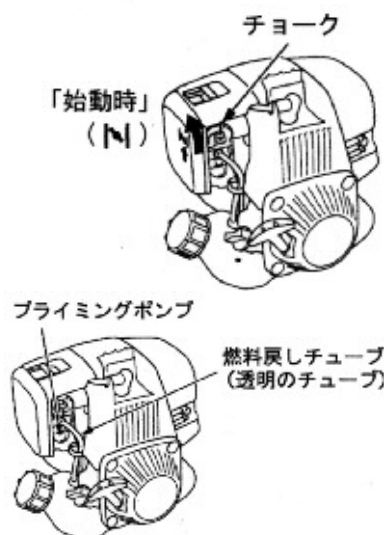
エンジンを始動する場合、周囲の安全を十分確認してください。

エンジンを始動する場合、クラッチレバーは必ず「切」にしてください。

1. クラッチレバーを「切」にします。
2. 寒い時や、エンジンが冷えている場合は、チョークレバーを「始動」の位置にします。
3. (エンジンが暖まっている場合は、必要ありません)
4. 燃料戻しチューブに燃料が戻るまでプライミングポンプを押します。
5. リコイルスターターを勢いよく引きます。
6. チョークレバーを「始動」にしている場合は、エンジン回転を確認しながら徐々に「運転」位置に戻します。



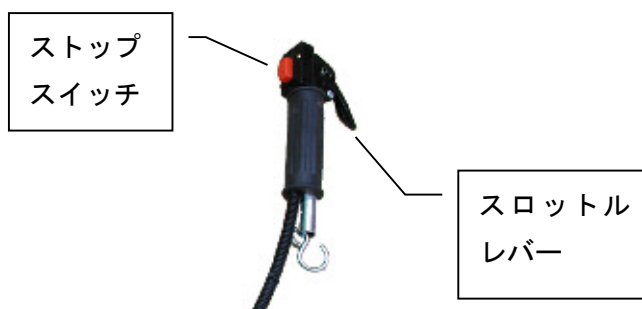
クラッチレバー



7. 2～3分暖気運転を行ってください。

4. エンジン停止方法

1. スロットルレバーを放します。
2. 巻取機ストップスイッチを「OFF」にします。



6 章 作業のしかた

1. 巻取りのしかた



注意

この作業は基本的に二人以上で行ってください。又作業をする方は二人とも本書を必ず熟知するまでお読みになってから作業を行ってください。

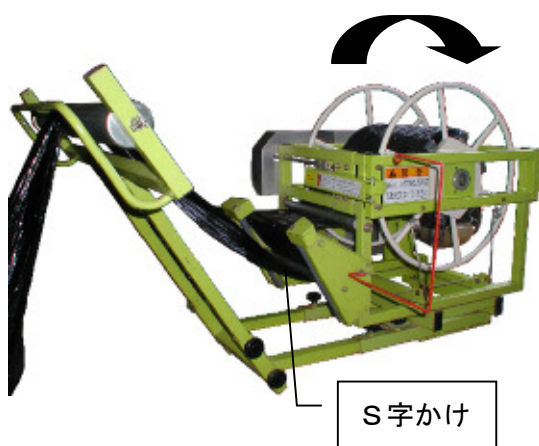


注意

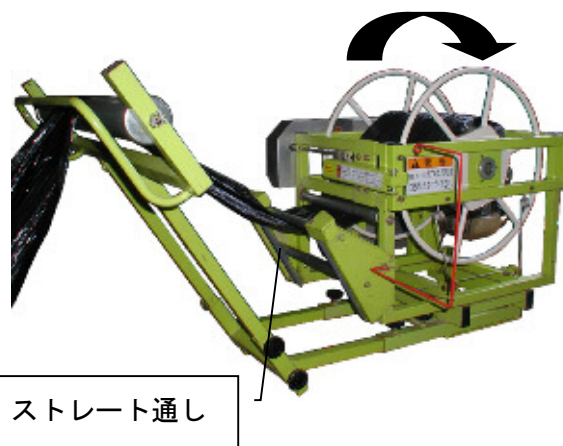
事故や機械の損傷を防ぐ為、全ての作業を二人以上で行ってください。

まず本機搭載可能機種種のセッティングをします。(セッティングはそれぞれの機種に付属されている取扱説明書等に従ってセットしてください。)

1. 畦の端はあらかじめ手で5mほどはぎ取っておきます。
2. 本機搭載のトラクターをあらかじめはぎ取った畦に移動します。
3. 後は本機搭載機の作業に従って作業します。
4. 巻取り方法は下の写真の様にマルチシートを通して巻き取っていきます。巻取りは作物や作業にあった方法を選んで行ってください。



すでにはぎ取ってあるシート等を巻き取る場合は、写真の様に入り口ローラーへSの字にシートを通して巻取り部に巻いて、抵抗をかけるように巻いていきます。



直接畦からはぎ取る場合は写真の様に入り口ローラーの間から、直接巻取り部に巻いていきます。

5. 4の方法が決まったら巻取り部にシートを1回転以上巻取り部に巻き、クラッチレバーを「入」にしてください。

クラッチレバー



エンジンをかけてトラクターに乗り込みスロットルレバーを片手に持ち、前進させながらスロットルを調節していきますと、巻取り部が回転してシートを巻いていきます。

スロットルレバー



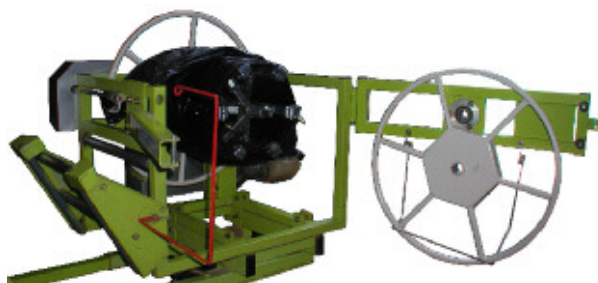
6. シートの巻き取りは約200回転程度を目安に巻いてください。
7. 巻き終わったらシートを本機から取り出します。



①とびら開放レバーでとびらが開きます。



②とびらが開いた状態



③開放後はサイドリングをサイドリングストッパーに立てかけてから手で開き、巻き取ったシートを抜き取ります。



④巻取り部に手を挟まない様気を付けて広げます。(写真の様な持ち方をしてください)



⑤巻取り部を広げた後はサイドリングをはめて、とびらを戻し、フックを掛けてクランプの「閉める時ここを押す」のところを押して閉めます。

⚠ 注意

シートを外す際、作業者がとびら付近にいないことを確認してからとびらを開けてください。シートが巻絞められてとびらが勢いよく飛び出し危険な場合があります。

7 章 点検・整備のしかた

1. 作業後の手入れ



警告

各部の掃除をするときは、必ずエンジンを停止させ回転部分が完全に停止してから行ってください。

エンジン停止直後は、エンジン・マフラー等、加熱部には手を近づけないでください。火傷などの原因になり危険です。

1) 各部の掃除のしかた

巻取り部についた土砂、草類は、出来るだけ早めに取り除いてください。

水洗いは巻取り部に限りおこない、他には水をかけないようにしてください。水がかかった場合は、布等で拭きとってください。

水洗い後は、巻取り部へスプレー式潤滑剤等で注油してください。

エンジン冷却風の吸い込み口で、シリンダー付近の土ぼこり等はオーバーヒート等の原因になりますので、こまめに掃除をしてください。

(日常の点検と調整参照)

2) 長時間使用しない場合の手入れ、保管



警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

ガソリンを抜くときは、エンジンを停止してください。

火気を近づけないでください。

換気の良い場所で行ってください。

ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布などで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

燃料は抜き取るか、使い切って空にしてください。

「カバー等を機械に掛ける」ときは、加熱部分が完全に冷えてから行ってください。

熱いうちにカバー類を掛けると火災の原因となり大変危険です。

格納、保管場所は、明るく広い所にしてください。

2. 日常の点検と調整



警告

点検、整備をするときは、必ずエンジンを停止させ、回転部分が完全に停止し、温度が下がってから行ってください。

やけどなど障害を負うおそれがあります。



注意

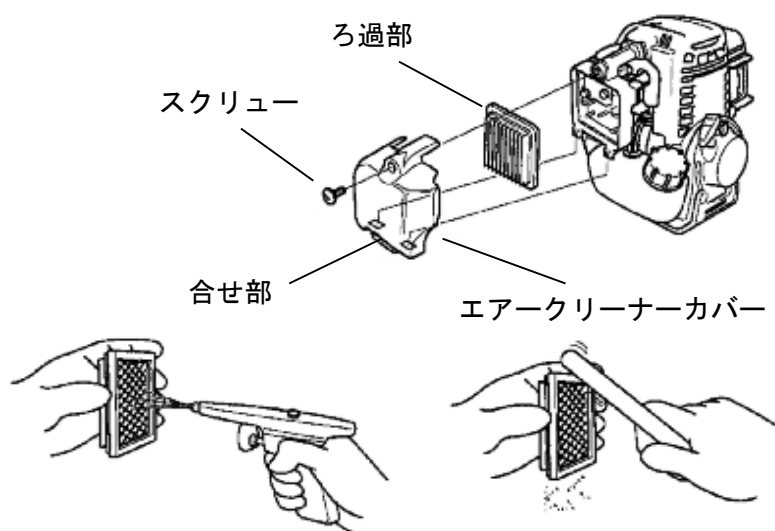
エアークリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。

エンジンが損傷する原因となります。

1) 日常のエンジンの点検と調整

(エアークリーナー)

エアークリーナーが目詰まりすると、出力低下や燃料消費が多くなります。



- 1 エアークリーナーカバーを外し、ろ過部（紙製）を取り外します。
エアークリーナーカバーの取り外しはスクリューを外した後、下部を離して行います。
- 2 ろ過部（紙製）の内側から圧縮空気を吹き付けるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。
圧縮空気は 200kPa (2.0kgf/cm²) 以下で吹き付けてください。
- 3 エアークリーナーカバー及びケース内側に付着している汚れをウエス等で取り除きます。
この時キャブレターにゴミ等が入らないように注意してください。
- 4 ろ過部、エアークリーナーカバーを取り付けます。
エアークリーナーカバーの取り付けは、下部の2ヶ所の合わせ部を組付け後、スクリューを確実に締め付けて終了です。

(燃料タンク)



警告

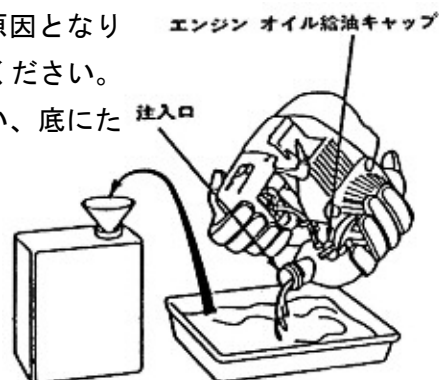
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

火気を近づけないでください。換気の良い場所で行ってください。

ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布などで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。12カ月または、100時間運転毎に掃除してください。

燃料を抜いた後、燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取り除いてください。



(エンジンオイル)



注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなど加熱部が熱くなっています。

十分に冷えてから、オイル点検、交換等、作業を行ってください。火傷などの原因になり危険です。

エンジンオイルが汚れていたり、不足していると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。オイル量の点検、補給は頻繁に行ってください。エンジンオイル交換時期、交換要領は別紙エンジン取扱説明書参照に行ってください。

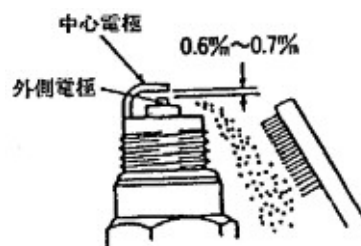
(点火プラグ)



注意

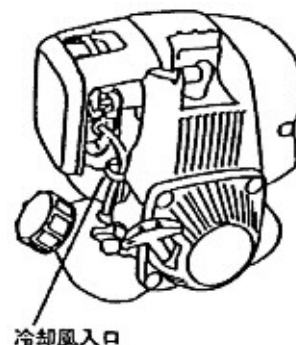
エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。火傷をしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

点火プラグの電極スキマは、0.6～0.7mmです。プラグスキマを点検し調整してください。また電極部が汚れている場合はワイヤブラシ等で掃除してください。点火プラグの点検は50時間運転毎に行ってください。



(冷却風通路)

注) 草、芝、泥などの詰まりによるエンジン焼き付き不具合は保証対象外となります。
作業前後に冷却風通路、冷却フィンを目視で点検し、草、芝、泥などによる詰まりがない事を確認してください。詰まりがある場合は掃除してください。



(燃料フィルター)

警告

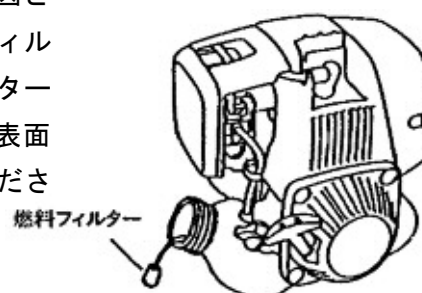
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

火気を近づけないでください。

換気の良い場所で行ってください。

ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、ウエスなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

燃料フィルターが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。100 時間運転毎に定期的に取り出して燃料フィルターが汚れていないか点検してください。燃料フィルターが汚れている場合は洗剤で洗って燃料フィルター表面の汚れを落とします。汚れが著しい場合は交換してください。

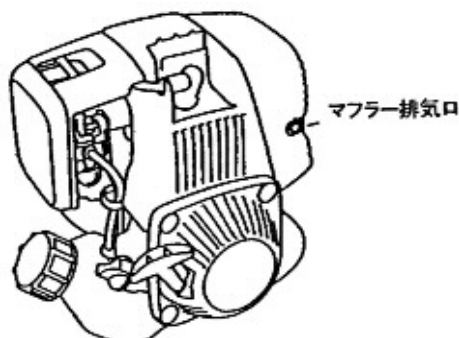


(マフラー排気口)

⚠ 注意

エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。火傷をしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

50 時間運転毎にマフラー排気口（テールパイプ）を点検し、カーボン等、「ツマリ」がある場合は、ドライバーなどで落としてください。

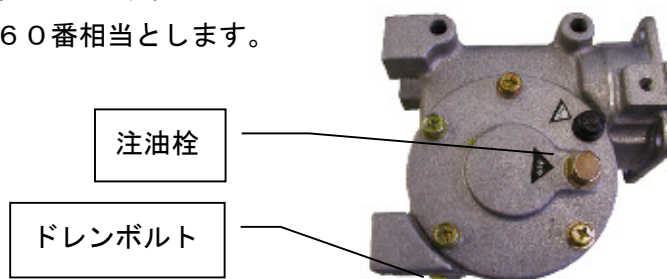


2) 日常の駆動部の点検と調整

(ウォームギヤオイル)

50から100時間毎に注油もしくは交換をしてください。注油の場合はミッションの注油栓を外し10cc注油します。また交換の場合は、下部のドレンボルトを外しオイルが全部抜けたのを確認の上90ccを注油します。

補給オイルはギヤオイルの#460番相当とします。

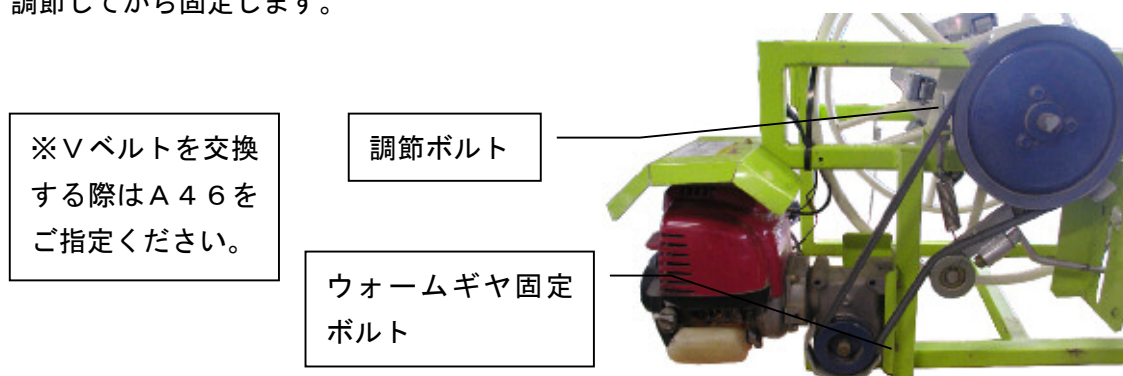


(Vベルト)

Vベルトは1シーズンごとに点検をしてください。

巻取り作業中にVベルトのすべりを確認した場合、調整をします。

Vベルトの調整はベルトカバーを外し、右写真の調節ボルトをバネが延びる方向に絞めます。それでも足りなくなった場合はウォームギヤの固定ボルトを緩め下にさげてベルトの張りを調節してから固定します。



8章 不調診断のしかた

現 象	原 因	処 置
始動しない	・ 燃料タンクに燃料が入っていますか ・ 燃料に水が混入していませんか ・ 燃料フィルターが目詰まりしていませんか ・ 始動操作手順が間違っていないですか ・ 点火プラグがくすぶっていませんか ・ コイル・イグナイターが故障していませんか ・ キャブレターが目詰まりしていませんか	・ 燃料を給油してください。 ・ 新しい燃料と交換してください。 ・ 洗浄または交換してください。 ・ エンジンの始動方法の項を参照してください。 ・ 点火プラグを交換してください。 ・ 交換してください。 ・ 洗浄または交換してください。
排気音が大きくなる	・ マフラーがゆるんでいませんか	・ マフラーのボルトを増締してください。
スロットルを「低」位置に戻してもエンジン回転が下がらない	・ クラッチスプリングが欠損していませんか ・ キャブレター調整ができていますか	・ スプリングを交換してください。 ・ アイドルスクリー・ワイヤーアジャスターを調整してください。
エンジン回転が上がらない	・ スロットルワイヤー調節は良いですか ・ エアークリーナーろ過部が目詰まりしていませんか ・ 排気口、マフラー内にカーボンが蓄積していませんか	・ ワイヤーを調節してください。 ・ エアークリーナーろ過部を清掃してください。 ・ マフラーを清掃してください。
エンジン回転を上げても動かない	・ クラッチレバーが「入」に入っていますか ・ シートが引っかかっていませんか ・ スプロケットのキーが抜け落ちていませんか ・ ウォームギヤが摩耗していませんか ・ Vベルトが緩んでいませんか	・ クラッチレバーを「入」にいらしてください。 ・ 引っかかりをとりのぞいてください。 ・ 販売店にご相談ください。 ・ 販売店にご相談ください。 ・ ベルトを張ってください。
作業中エンジン回転が下がり動かなくなる	・ シートが引っかかっていませんか ・ 燃料タンクに燃料が入っていますか ・ 燃料に水が混入していませんか	・ 引っかかりをとりのぞいてください。 ・ 燃料を給油してください。 ・ 新しい燃料と交換してください。

9章 仕様

品 名	マルチ巻取機
型 式 名	MHS310JT
全 長 × 全 幅 × 全 高 (mm)	1030×670 (900) ×660
質 量 (kg)	67
エ ン ジ ン 形 式	ホンダGX35
エ ン ジ ン 排 気 量 (cc)	35.8
エ ン ジ ン 出 力(kw{ps}) /rpm	1.2 {1.6} /7000
エンジン使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
エンジンオイル量 (ℓ)	0.1
エンジンタンク容量 (ℓ)	0.65
エ ン ジ ン 気 化 器	ダイヤフラム式（オーバーフローリターン）
エンジン始動方式	リコイルスターター
エンジンクラッチ方式	遠心クラッチ
点 火 方 式	トランジスタ式マグネット
点 火 プ ラ グ	NGK : CM5H / CMR5H
最 大 巻 取 長 (m)	（参考寸法）厚さ 0.03 ミリ、幅 140 ミリ、長さ 200 ミリ
巻取速度調整方式	エンジンスロットル

製造販売元



株式
会社

岡山農栄社



ホームページ <http://noeisha.co.jp>

本社	〒703-8204 岡山市中区雄町394-3	TEL (086) 279-6100
本社営業所	〒703-8204 岡山市中区雄町394-3	TEL (086) 279-6100
北海道営業所	〒078-8275 旭川市工業団地5条3-3-1	TEL (0166) 36-5115
東北営業所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町4-2-44	TEL (022) 232-5609
関東営業所	〒372-0023 群馬県伊勢崎市粕川町1616	TEL (0270) 21-8127
九州営業所	〒862-0911 熊本市東区健軍3-45-13	TEL (096) 368-7407

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			